

空が伸びると道路も伸びる 空港整備で、ヒト・モノ・カネもますます伸びる！

パワフル・インド（政策関連） ～空港の建設ラッシュ、都市部の空港整備が進む～

▶ インド旅客数の飛躍

2022年の世界の空港旅客数（国際・国内線の合計）を見ると、インドの**インディラ・ガンディー国際空港**（デリー）は旅客数5,950万人で世界第9位となり、アジア地域内では最も旅客数が多い空港となっています。コロナ前の2019年比では▲13%ですが、2021年比では+60%となっています。上位30位までを見ると、インドの空港では**チャトラパティ・シヴァージー国際空港**（ムンバイ）も3,830万人で世界第28位に入っています。一方で、ゼロコロナ政策を続けていた中国の空港は30位以内には見られませんでした。ご参考までに、日本の最上位は5,030万人の東京国際空港（羽田）が世界第16位でした。

世界の空港旅客数（2022年）

順位	空港名	国	旅客数	前年比
1	アトランタ	米国	9,370万人	23.8%
2	ダラス・フォートワース	米国	7,340万人	17.4%
3	デンバー	米国	6,930万人	17.8%
4	シカゴ・オヘア	米国	6,830万人	26.5%
5	ドバイ	UAE	6,610万人	127.0%
6	ロサンゼルス	米国	6,590万人	37.3%
7	イスタンブール	トルコ	6,450万人	73.4%
8	ロンドン・ヒースロー	英国	6,160万人	217.6%
9	デリー	インド	5,950万人	60.2%
10	パリ・シャルル・ドゴール	フランス	5,750万人	119.4%
...				
16	羽田	日本	5,030万人	92.3%
...				
28	ムンバイ	インド	3,830万人	93.7%

※出発・到着利用客の合計。乗継客は1回としてカウント。

▶ 空港インフラ整備

インドの空港は、人口増加や経済成長も相俟って旅客数が大幅に増加し、コロナ前には深刻な混雑が問題となりました。そのため、足もとでは混雑緩和、ハブ空港の機能を分担すべく新空港の建設ラッシュとなっています。また、モディ首相は2021年、総予算規模100兆インド・ルピー（約180兆円）の国家インフラ開発計画「ピーエム・ガティ・シャクティ※」を発表し、道路、鉄道、空港、港湾等のインフラ輸送網を統合的に整備を進める方針を示しています。 ※ヒンディー語で「首相によるスピードと力」の意味

現在、様々なインフラ計画が進行しており、空港インフラの利便性を向上させることで、経済活動や観光産業のさらなる活性化が期待されます。

空港インフラ例

- ・**ノイダ国際空港**（2024年に運用開始予定、デリー首都圏）
- ・**ナビムンバイ国際空港**（2025年3月までに部分開業予定、ムンバイ都市圏）
- ・ムンバイ湾横断道路（2024年1月開通）
- ・**ノイダ国際空港とインディラ・ガンディー国際空港**を結ぶ鉄道（未定）

出所：各種資料を基にパインブリッジ・インベストメンツ作成。

ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会